

## ガンの発生と退縮 全体像を探る②

<b>攻撃因子</b> →	<b>人体</b>	← <b>防御因子</b>
化学物質	老化	SOD
ウイルス	加齢	免疫
紫外線	細胞分裂	リンパ球
放射線	酸化	

**人体** 乳児 → 幼年 → 少年 → 青年 → 壮年 → 熟年 → 老年

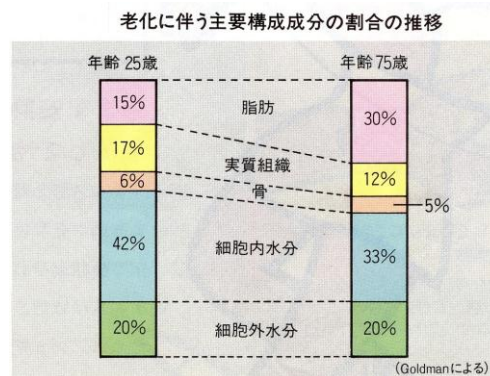
### 1、ミネラルの割合（ナトリウムとカリウムの割合）

人間は胎児や小さな乳児時代はナトリウム動物である。体内でナトリウムが相対的に優勢だからだ。これに対し、成長するとカリウム動物になる。そしてカリウムが優勢な状態が一生維持されなければならない。（マックス・ゲルソン著「ガン食事療法全書」）

ナトリウム・グループ (細胞外グループ)	カリウム・グループ (細胞内グループ)
ナトリウム、塩素、水、ヨード、臭素、アルミニウム	カリウム、燐、マグネシウム、銅、鉄、金

### 2、人体の水分と脂肪の割合

子供の頃は水分が多く、歳をとると細胞内の水分が少なくなる。全身の脂肪分は多くなる。そのため老化すると皮膚は乾燥して固くなる。



### 3、エネルギー生成系（嫌気性解糖系と好気性ミトコンドリア系）

子供時代は解糖系が優位の時。20代から70代は解糖系とミトコンドリア系が調和の時。その後はミトコンドリア系が優位の時。（安保徹著「かたよらない生き方」）

<b>嫌気性解糖系</b>	<b>好気性ミトコンドリア系</b>
瞬発力。酸素を利用しないでエネルギーを出す。	持続力。酸素を利用する。解糖系の15倍のエネルギーを出す
細胞分裂する（皮膚、腸の粘膜、骨髄）	細胞分裂しない（脳、心臓、骨格筋）